

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第 45 号

(題字は支部長)

平成30年8月1日

発行者

若林直樹

あいさつ

平成最後の...

支部長 若林 直樹

大里退職校長会会員の皆様、今年度も執行部はほとんど同じ顔触れです。宜しくお願いいたします。

新会員が参加しやすいよう、土曜日の5月12日、寄居町カタクリ体育センターで、平成最後の大里支部総会を実施しました。新会員15名、会員総数345名にて新年度が発足いたしました。

ご多用の中、ご臨席されご祝辞をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

前年度支えていただきました執行部の皆様、今年度もよろしくお願いたします。

昨年度印象深いものが、ロボットが主役の本田技研寄居工場の見学と大里地方教育推進協議会です。前者では、今後のロボットと人間の関係を考えさせられました。後者については、現役の校長先生の

活動ぶりに安心させられ、退職した会員が俳句の指導を通して、学校教育や社会教育に多大な貢献をしている姿。素晴らしい生き方を見せていただきました。

今年度は、理事役員研修会が9月6日、鉢形城歴史資料館にて予定されており。11月6日の大里地方教育推進協議会でも、退職校長会からの提案者は内定しております。風光明媚な当会場での実施は当分ないと思われしますので、多数の会員の皆様の参加を期待しております。

さいたま市文化センターでの県退職校長会の様子を見て、班をあげての活動がよくわかりました。

二年後、大里地区で開催されることを念頭に置き、全体像に対するイメージを今年度の役員から持つておきたいものです。特に、全体会議場の内諾を今年中に得ておきたいものです。あわせて、アトラクション、講演会の講師、懇親会、実施委員の選定をどうするか等に対して全体的イメージを持つてお

くことが次年度につながって行きます。最小会員数の寄居班の全力支援に甘えております。今年度も宜しくお願いいたします。

大里支部総会概要

平成30年5月12日(土)

寄居町カタクリ体育センター

新緑の山々に囲まれた寄居町カタクリ体育センターに寄居町花輪利一郎様、寄居町教育委員会教育長轟和男様、北部教育事務所長下野戸陽子様、県退職校長会副会長浅見勲様を来賓にお迎えし、平成30年度県退職校長会大里支部総会が盛大に開催されました。

開会のことばの後、昨年度ご逝去された6名の会員のご冥福を祈り、参加者全員で黙祷を捧げました。

続いて若林直樹支部長より、全会員の協力の下、前年同様に地域の諸教育機関や現職校長会との連携を密にし、事業推進に邁進する旨の方針が力強く示されました。

ご多用の中、ご臨席をいただいた来賓の皆様から一人一人ご挨拶をいただきました。皆様のご挨拶を紹介すべきところではありますが、今回は花輪町長様のお話の一

部を紹介いたします。

寄居町では、教育の重点施策として「アクティブラーニングの具体的な推進」「教科道徳を定着させ見える化による実施」「小学校の英語教育の実施と定着」等を掲げ、恵まれた人材と教育施設を活用して力強く推進している現状を具体的に話していただきました。

次に高齢者叙勲者9名が紹介され、支部長から記念品代が代理の方に贈呈されました。続いて新会員15名の紹介があり、神田昌文氏が代表して挨拶されました。

後半の議事は、熊谷班の新井俊一氏が議長となり、平成29年度事業及び決算・監査報告が承認され、梅澤副支部長から役員の交代・補充が報告されました。続いて平成30年度事業計画案及び予算案を審議し、規約

の一部改正とともに承認され、最後に県総会代議員の紹介をもって無事終了しました。

(文責)

富田法昭



寄居町カタクリ体育センター

随

想



雑巾がけ

熊谷中央 西木 優道

私が住職をしている寺には回廊（本堂を取り巻く長い廊下）があります。

回廊の雑巾がけには一時間程度を要します。回廊は、本堂の建立（昭和十二年）以来、改修されたことはありません。今年で八十一年になります。雨や風が直接あたるので傷みが進んでいます。一部は、表面がザラザラし、変色しているところがあります。

私は、この雑巾がけが億劫で億劫で仕方ありませんでした。二足のわらじを履いていた時は、週末の法事に備え金曜日、学校から帰った後、ばたばたと慌たたく雑巾がけをすることが度々でした。雑巾がけは、せいぜい一週間に一回、法事が無ければ二週、三週と間が空いてしまうこともありまして。そのため触ると掌にほこりがつく状態でした。

退職後は、時間的、精神的に余裕ができ、雑巾がけは週に二回か

ら三回程度に増えました。

この億劫だった雑巾がけが、現在、少しですが億劫でなくなってきました。回廊に変化が見られたからです。輝きはじめてたのです。古い回廊です。ピカピカとは光りません。が、以前と比べると鈍くではあります。が、光るようになったのです。

学級担任だった頃、私は様々な場面で東井義雄先生の詩を紹介しました。その中に継続の大切さを表現した「続ける」と本物になる」という一節があります。「続けていると回廊も自分の心も変化するんだなあ」。回廊の雑巾がけを通して、東井先生の言葉をかみしめている今日この頃です。

国際宇宙ステーション (ISS) を追って

熊谷中央 瀧澤英一郎

空気が澄み、星が美しい夜に、ISSをさがす。西の空から現れ東へと移動する。コースは南西↓北東へ、または北西↓南東へと。

筑波宇宙センターの（きぼう）、

ロボットアーム制御ラックのある実物大実験棟。あの重量のある物体が、人工衛星として飛んでいる。コースを検索する。観測地リストはパソコンで「倉敷科学センター」を参考にしている。観測地リストは、浦和か前橋。

それによると「六月十一日十九時二十分ごろ北西の低い空で見え始め、十九時二十三分ごろ南西のやや高め空（六十八・二度）で一番高くなり、十九時二十七分ごろ南東の低空へ動き見えなくなるとある。

大里の場合は、この観測地リストより一、二分遅いようだ。飛行機やヘリコプターと同じ速さで、静かに飛び去って行く。あの光こそ日本実験棟（きぼう）や、補給機（こうのとりの）の結晶だ。ソ連のボストークから始まり、アメリカのスペースシャトルへと、宇宙開発の歴史がある。この宇宙船に日本人飛行士や、世界各国の飛行士が参加。共に大きな業績をあげている。

日本人宇宙飛行士の参加も、十人を越える。今までの活動は、宇宙での操縦業務や船外活動、宇宙船の技術者や船長など、重責を果たすものであった。女性飛行士二名の、輝かしい活動もあった。ま

さに宇宙開発の歴史である。今も、遠い宇宙のあなた、狭い空間で、宇宙飛行士は実験観察を続けている。音もなく数分で消える光、今夜もISSを追う。



星川とうろう流し

母から学んだこと

熊谷西 細野 茂子

私の母は、今年、九十歳です。私と妹を育てた三十代の頃から、育児とともに農業に専念してきました。当時は共同で田植えをしていましたので、日の出を待つことなく朝早くから日が暮れるまで働いていました。幼心に寂しさを感じわがままを言う私に「自分ので きることは、きちんとやりなさい」という厳しい教えがありました。農閑期の冬は寒いのに、母は自転車で工場に行き、残業のある日は必ず働いてきました。そして、給料日には頂いた給料を見せ、お金の大切さを話してくれました。

それから、父が四十三歳で他界した後は、母が農業機械全てを動かし、何事もやりこなしました。決して弱音を吐かない母でした。どんなに苦しいことがあってもがんばりぬくことの大切さを後姿で教えてくれました。

私が就職し、子育ての時代には孫の面倒を見、夕飯の準備もしてくれました。幼稚園に入園して間もなくのこと、長男は、門の所でなんと「おばあちゃん」と叫んでいたそうです。本来なら「お母さん」と呼ぶのでしょうか。

それだけ、母は、孫を可愛がり真剣に育ててくれました。

また、母は「茂子が退職するまでは、私がしっかりしなくては」と言い続け、その通りにがんばってくれました。本当に感謝です。

八十七歳で心臓の手術を受けました。母の忍耐力で全て克服し九十歳になる今、腰は曲っています。が草むしりもしています。

母のように、私も、強くたくましく、家族や孫に尽くしたいと改めて誓うこの頃です。

大人が手本となって

熊谷南 渡邊 雄市

退職して二年目の春を迎えた。多くの方にご指導いただき、現在

は児童クラブの放課後ケアワーカーとして、子ども達に関わっている。一月には人権擁護委員としてのお役目もいただき、微力ながらも人権を守る活動に携わっている。

自分が現役時代から現在に至るまで、日々の生活や仕事をする上で大切にしているのが、熊谷市が進める「熊谷の子どもは、これができます！四つの実践と三減運動」である。シンプルな内容であるが、実に奥深い教えである。毎年四月には市内全家庭に啓発資料が配布されている。資料の中央には「大人が手本となって」と記されている。つまり、この取組は子どもにさせるだけでなく、大人が手本となつて行う活動なのである。

「四つの実践」

①朝ごはんをしっかりと食べる。

大人は子どもが朝ごはんを食べる環境を作るとともに、自らもしっかり食べ、手本となること。



葛和田大杉神社あばれみこし

②呼ばれたら「はい」と元気よく返事をする。

自分が存在することの証である。勿論TPOも必要であるが、意識しながら手本となること。

③「ありがとう」「ごめんなきい」と言う。

社会生活の基本であり、コミュニケーションの第一歩である。子どもだけでなく、大人も声に出し素直に身の回りに感謝し、時には反省・謝罪することが必要である。

④友だちをたくさんつくる。

以上のことができれば自分が磨かれ、自ずと友だちが増える。生活・仕事・人生を通じて子どもが手本となれるよう、実践していきたくと考えている。

ヤモリⅡ

熊谷北 荻野 俊行

毎年、夏になると拙宅の玄関にはヤモリがやってくる。南側の玄関の明かりに集まる虫を求めて。

そのヤモリ、玄関の戸を開けた拍子に落下したり、一時間もの間餌を捕れずにジーツツとしていたり（眺めている方も変か？）と、結構な話題を提供してくれる。

昨年の夏、建物の東側の窓にいるヤモリを発見した。こつちの方まで来るのかと思ひその姿をよく

見ると、玄関に現われるのと比べると幾分小さい。その上すばしっこく動き回って餌を捕る。余っ程の食いしん坊なんだ、と見た。

盆が近づいてきたので、別棟の母屋の玄関掃除をしていたら、カーテンにシミのようなものが見えた。広げてみたら、ヤモリだった。箒を使って外へ逃がしたが、家の中まで入り込んでいることが分かった。夜行性だと思っていたが、日中でも動いているものなのかなと思ったりもした。カーテンを寝所としていたのなら話は別だ。起こしてしまつたか！

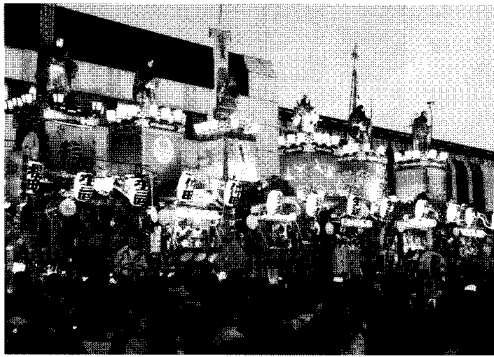
ある晩は、北側のお勝手窓に現れた。蛍光灯のすぐ先なので、ここが一番よく見えた。そのヤモリの視線の先に、もう一匹のヤモリ。この二匹は、自分の陣地を脅かす敵としてお互いを見ているようだった。取っ組み合いこそしないが近づいたり向きを変えたり、攻防戦を繰り返していた。動きが速いのは、東の窓に現われるのに似ている。一分くらいの小競り合いの末、勝負の軍配は「ひがいしー」のヤモリにあがった模様。今年も、その姿を二回見ているが文に認めるほどの変わった様子はない。直にⅢの発見があるう。

古に思いを馳せて

深谷北 村川 栄

我が家の畑の近くで発掘された遺跡が国の史跡に指定されるといふ話を聞き、公民館で行われた記念講演会に参加してみた。

遺跡の正式名称は「幡羅官衙（はらかんが）遺跡群」。深谷市東方地区から熊谷市西別府地区に広がる遺跡群である。官衙とは、役所や官庁を意味する言葉。遺跡からは、古代役人の館や寺院跡、「正倉」と呼ばれる倉庫跡等が発見されているという。遺跡群が存在した年代は、七世紀後半から十一世紀前半にまで及ぶそうである。講演会でいただいた地図によると、我が家の畑は遺跡群の南西縁



熊谷うちわ祭

に位置するらしい。

そう言えば、私が小さい頃畑で遊んでいた時、周辺に高さ1m程の、古墳らしき小高い丘を幾つか見た記憶がある。更には、畑周辺のあちこちから土器の破片らしきものが出てきた思い出も蘇ってきた。講演の内容と、昔の記憶とが糸で繋いだように結び付き、私の心を古代まで誘ってくれた。

「幡羅」という地名の謎も解けた。私自身は、「羅」という文字が入るので、朝鮮半島からの渡来人に関係した土地ではないかと考えていた。しかし、実際は、律令国家成立の過程で下された「好字令」（郡名、里名を好い二文字に改めよ」という令）に従い、それまで「原」とされていた郡名が「幡羅」に改められ、更に、平安時代には「幡羅」に変化したそうである。「幡羅」を「はたら」と読むようになったのは、江戸中期以降だとのことである。

「幡羅」の由来について、ずっとモヤモヤしたものがあつたが、講演でそれが払拭され、大変清々しい気持ちになれた一日であつた。今も時々畑に出かけているが、講演で聞いた古代の様子を今の田園風景の中に思い浮かべながら、古を偲んでいる今日この頃である。

濡れ落ち葉からの脱出

深谷中 久保 誠

『男性の生活自立度チェック表』には、次のような事項が20ある。

- 1 掃除機を使うことができる
- 2 ご飯を炊くことができる
- 3 ボタンつけができる
- 4 自分の飲むお茶は基本的に自分で入れる
- 5 一人で夕食の材料をそろえることができる
- 6 収集日にはよくゴミを捨てに行く
- 7 テキストなしで作れる料理が八種類以上ある
- 8 週に五回以上、食事の片付けをする
- 9 自分のワイシャツによく自分でアイロンをかける
- 10 トイレ掃除をすることがよくある
- 11 外で堂々と洗濯物が干せる
- 12 自分の服は自分で買う

以下略

（「フレンテみえ」から抜粋）

退職前の結果は5点。「濡れ落ち葉予備軍」と書かれていた。

退職後、まず始めたのが料理。妻に教わると手際の悪さを指摘され、「料理教室で基本を習った

方がよい」と勧められた。退職した年の五月から、月一回大宮の料理教室に通うことにした。

その料理教室も、今年で五年目を迎えた。「お料理はじめての会」からスタートした料理は、和食・洋食・中華・母さんの味と進み、今では毎日家庭で実践している。

料理のお陰で家事力もつき、自立度チェックの得点も17点になった。

「掃いても掃いてもまとわりつく濡れ落ち葉」から、脱出できた。感じた。

スマートフォンはどうか

寄居 神谷 為義

五月の連休も終わり前期の授業が佳境に入り出した頃、今年、他大学から移って来られた女性の先生と話し合う機会があつた。先生は五十代後半のベテランの方である。先生は「しつかりした文書を書かせたいので辞書を持って来させようと思うが、どうか」と言う。私はその気持ちに同感しつつも「やつかいがあって持って来ないかもしれない」と思った。

そこで、使わせるならスマートフォンはどうかと提案した。それなら学生は全員持っている。辞書

機能も万全だ。もつとも校則ではそれを授業中机上に出すのは御法度なのだが……。

ところで、現在文科省は教員養成に関わる全大学・短期大学の教職課程認定を再度行っている。それは教員資格や授業内容を見直すことである。過去十年間の論文等の業績と教科目が合っていないければ、どんなに経験豊富な教員もそれを教えることができない。また教科目には、教職課程コアカリキュラムの内容が漏れなく盛り込まれていなければならない。

新入会員の声



教師を育てて恩返し

熊谷南 水庭 桂子

未来を担う子供たちの前に立つ「教師」の責任の重さを改めて痛感している日々を送っています。その「責任」について自覚を持たせるための研修は、身の引き締まる思いです。同時に、「信頼される教師」となるように育てることが、今まで支えてくださった方々への恩返しだと思っています。

大学におけるその新教職課程は来年度から始まるのだが、各教科・保育内容の指導法では、「情報機器及び教材の活用を含む」ことが必須となっている。審査のために提出したシラバスには、コンピュータの使用やインターネットの情報検索・収集などの言葉が明記されている。

冒頭の話は、そんな状況からスマートフォンを使わせるといふことになったのだが、果たしてそれはよい方向なのだろうか。薦めつつも釈然としないのである。

趣味を満喫!

熊谷東 島村 明義

趣味の釣りと野菜づくりを楽しむ時間が持てるようになりました。我が家からほど近い利根大堰の下流域は、鯉やハクレンなどの大型魚が群れています。リール竿に五号のハリス、第一投から五分もしないうちにはヒットです。十分以上の大型魚との駆け引きがはじまります。ボウズなしです。夏は餌を代えて、鰻、ボラ、スズキ釣りに挑戦です。釣った魚は、酒の肴と畑の肥料となります。美味です。

食・風景・歴史を求めて

熊谷北 小林 淳一

私の現在一番興味のあることは遠出のドライブです。そこでの食べ物や風景、歴史に出会うことが好きで、以前から長期休業中にまとまった時間を使って車で遠出していました。北は函館、南は四国、広島まで行きました。これからも、車で遠出することを楽しみにしています。また、旅先での風景などを写真で撮っていきたくて考えています。



妻沼聖天山火渡り

永平寺を訪ねて

熊谷南 小林 晃一

五月半ば、菩提寺である高雲寺のご住職が修行を積まれた曹洞宗の大本山永平寺を訪ねた。

境内は新緑がまぶしい。清々しい空気に満ちて、気持ち自然と静まつてくる。びかびかに磨かれた廊下を歩きながら七堂伽藍を巡る。傘松閣の絵天井や諸堂の彫刻は見事。大勢の修行僧が読経する声が心地よく響く。

自立・協働・貢献の力を

熊谷中央 松本 文利

「自立・協働・貢献」私が目指してきた教育の目標です。自立とは「自ら考え判断し行動する力」、協働とは「仲間と話し合い、課題を解決する力」、貢献とは「他の喜びを自分の喜びとする力」です。これからの社会は予想困難な先行き不透明な社会であるといわれていますが、逆に可能性は無限大であるともいえます。考え方を柔軟に、挑戦する気持ちを持ち続けていきたいと考えています。

新たな意欲を持って

熊谷西 瀧口 裕史

四月から新たな生活が始まりました。初任者教員への支援、自分自身が教員としての初心に帰ったつもりで、ある意味、新鮮な毎日です。現在は、その仕事との関わり

りもあり三十年以上続けてきた「国語のサークル」活動で若い先生方とともに勉強会をしています。月に一度ですが、今年も若手教員も増え活気ある勉強会になってきました。新たな意欲を持って進んでいきたいと思えます。

将来生活設計の模索中

熊谷北 柏瀬 健一

退職して、これまでの生活と大きな変化はありません。しかし、気持ちの部分で楽になったような気がします。

今私は、自分が楽しめることを探しています。これまで出来なかったことに挑戦したい思いから、若い頃の自分を思い出し、自分が楽しめることの幾つかを決め、挑戦の初歩段階が始まりました。現在、挑戦の楽しさを味わいながら、将来の生活設計を模索しています。

新たな気持ちで

深谷中 和田 隆

同じ一日なのに四月からの日々は、少しゆったりと、のどかに流れているように感じます。今まで気づけなかった庭の花々や小鳥のさえずりにも心を癒されます。また、晩酌も始めてみました。

現在、再任用教員として初任者

五人とともに、日々奮闘しています。初任者には、教師としての「やり甲斐や楽しさ」を少しでも感じてもらえればと思っています。

新たなスタート

深谷北 宇野 澄男

三十七年間の小学校教員生活を無事に終えることができました。

退職後は、健康のためゴルフや庭木の手入れを頑張りたいと考えていました。四月から市立幼稚園の園長として働いています。小学生より更に小さな園児を相手に目を丸くする日々です。幼稚園教育を一から勉強していきたいと思えます。頑張り過ぎず、一歩ずつ着実に進もうと思えます。

ほっとうつります

深谷中 菊地 正彦

三十八年間勤めた学校を去り、今のはのんびりと時間が過ぎるのを楽しんでいきます。畑の草が伸びてこないようにとトラクターを使ったり、庭の樹木の剪定をしたりなどして毎日を過ごしています。これといった趣味を持たず今までやってきましたが、これから何か自分でできることを見つけていきたいと思えます。退職校長会の皆様には、お世話になります。

新しい世界へ挑戦

深谷中 栗田 敦

クイズ「はじめ金髪、そのうち白髪、最後に坊主」「これなーんだ」「幸せの種タンポポです」。園児は我先とばかりに元気に「ハイハイ」と応じる。今までに余りにも日常のありふれたことに目を凝らし、学びとは考えていなかった世界がここにある。色、形、種の変化、そして、不思議や発見、驚き、探究までもがでてくる。何もかもが眩しく見える今、新たな学び・遊びの世界に挑戦しています。楽しい。

これからの私

深谷南 大澤 誠一

幡羅中学校長を最後に、三十七年間の教職生活を終えることができました。校長としての責任を果たしたという安堵感とこれからの生活への不安感が入り交じる複雑な心境です。退職したとはいえ、まだまだ身体も心も元気いっぱいです。今後は、少しでも地域や社会発展のために役立ちたいと思っております。自分の志を立て、責任を持って行動し、協力し、信頼されるよう努めて参ります。



三尻お田植祭

跡継ぎを育てる

深谷中 山口 勝

第三十五回関東ブロック中学校社会科教育研究会埼玉大会が好評のうちに終了できた。四年をかけたオール埼玉から選抜された百数十名の研究部員・役員の心が一つに結実し、三分野で五つの授業を作りあげた。中心スタッフとして北部役員も実力を遺憾なく発揮してくれた。これから次の埼玉大会に向け、埼玉の社会科教育を担う後継者を育てていきたい。月一回の勉強会で若い先生方と熱く語り合っている。

ワサビ(和差美)を効かせて

寄居 神田 昌文

土を耕し、実を結ぶことを念じ

ながら、毎朝、水遣りと追肥ができる喜びを味わっています。

私は四月から、初任者指導教員として深谷市内の小学校四校に勤めております。小学校の勤務は初めてですが、初めてだからこそ、小・中学校のワサビ（和差美）を効かせることができるものと自負しております。学級経営の充実を図り、ワサビの効かせられる初任者指導教員を目指します。

生涯学習模索中

寄居 室岡 寛昭

四月からは、「自分の目指す知・特・体のバランスのとれた充実した日々を送る」と決めていました。「知」は、旅行を中心に教養を深め、「特」は、陶芸という特技をつくり、「体」は、深田久弥の示す百名山を踏破することでした。しかし、実際は日々の生活に追われ、足踏みしている状況です。これから平均寿命で考えれば二十年余りの時をどう過ごすか、短いスパンで考え実行しようと思案中です。



地区だより

戦時下、学校教育で扱われた

「畠山重忠」

深谷南 小久保良一

郷土の偉人畠山重忠は、長寛二年（一一六四）武蔵国男衾畠山館で生れています。治承四年（一一八〇）重忠は源頼朝にお目見えし、従います。平氏討伐のため、重忠は先陣を任されました。

源頼朝が死去した正治元年（一一九一）までに、「鴨越の逆落とし」の場面で、愛馬「三日月」を背負って崖を降りるなど、重忠の剛力ぶりがうかがえる逸話が数多く残っています。

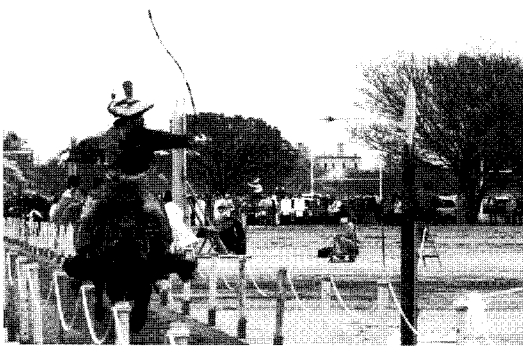
郷土の偉人と言われている人達が、各地で副読本等で学ばれています。

畠山重忠もかつて学校教育で取り上げられています。その資料は「抄本古今著聞集」（昭和一二年訂正再発行、旧制中学校三年～五年）です。

時は太平洋戦争に突入する時代です。男子は「雄壮節義の美風を保つ」上で、武勇の誉れが高く、清廉潔白と称された畠山重忠を学ぶことが、多感の少年に与えるの

に良いと捉えたのでしよう。

源頼朝は相撲を好んだと言われています。そんなある日のこと、長居という相撲取りが鎌倉に來たので、頼朝は会って見たかと思ひ呼びました。長居は「おそらく私に勝てる者はいないでしょう。ただ畠山という力持ちの武士がいるそうですが、その人なら相手になるかもしれませんと申しました。丁度、その時、重忠が参上しておりましたので、重忠も望まれるままに、長居と立ち会うことになりました。結果的には重忠の力が勝り、長居は氣絶して、肩の骨が折れたということです。



熊谷さくら祭 流 鎧 馬

親睦ゴルフ大会 成績

六月五日、二十三名の申込者を得て、若林支部長の激励のこぼの後、春季親睦ゴルフ大会を上武ゴルフ場で開催しました。梅雨晴れの好天の中、参加者の皆さんが楽しくラウンドすることができました。また、今回も八十歳を超える先生方にもご参加いただき、はつらつとしたラウンドに励まされました。ありがとうございました。

- 優 勝（支部長杯） 林 健次
- 準優勝 中村充志
- 三位 千葉直之
- ベストグロス 81 中村充志
- 敬称略

写真の説明

紙面を飾る写真は、写真同好会の飯島修先生が撮影された「熊谷の祭り」の一部です。

熊谷には一年を通して沢山の祭りがあり、その勇壮で伝統的な姿に魅せられ写真を撮るようになってのことです。

これからは、地域の小さな祭りにも目を向け、祭りを担う人々の生き生きとした姿、思いなどをフリンダーから見たいとおっしゃっていました。

文芸

短歌

傘寿

深谷中 真下 義明

友つどい傘寿を祝う旅終えて
「また会うだよ」と念押し別る

あかりつく校舎の前を通るたび
若かりし日の我に重ねり

住みなれし里の景色を眺めつつ
傘寿の歩み沁み沁みと行く

俳句

合歓の花

寄居 石澤 邦彦

生まれくる孫の名案じ春を待つ
お地蔵のやうな赤子の昼寝かな
朝蟬や不意に泣き出したる赤子
赤子居て飽かざる一日合歓の花
紋付を着しをさな児にお年玉

遠き信濃

熊谷北 根橋 文武

かたことの

ジイとよび初む 五月かな

下校児の

話はずきぬ 五月かな

青嵐や 教員生活 最後の日

惜春や

ようよう覚悟の カテーター

母の日や

遠き信濃の 土になる

詩

朝ごはんのうた

—朝ごはん運動推進ソング—

熊谷西 新井 俊一

作詞 作曲

ごはんを食べるとワクワクしてくる
心も軽く 体も踊る
何かいいこと ありそうな
そんな気がする 朝ごはん
そのわけは知ってるよ
子どもだから ごはんには
大きな愛がつまってる
我が家の誇りは 家族
家族のはじまり朝ごはん
さあ食べよう 朝ごはん

網走懐旧 僻地三級校叙景

—マンサクの花が咲いたよ—

熊谷東 野口 静男

古い木造校舎の教室が明るい

小学校三年生、国語科朗読の元気な声「マンサクの花が咲いたよ」。

網走の自然が輝く五月、雪溶け

である。教員住宅周辺の樹林に赤

い頭のキツツキが「コン、コン、

コン」と頭を打ち続けている。写

真や図鑑の絵とそっくりである。

規則正しく並んだエゾ松の芽吹

きの防風林が地平線まで長く続く。

突然、集落の有線放送が職員室

に響く「第三地区方面に熊の出没

の確認」緊急放送キャッチ。「集

団下校、保護者の出迎えを」。

遠くに聳える知床斜里岳の頂き

は、まだ銀色に雪が光っている。

昭和三十四年五月、初夏。



熊谷花火大会

編集後記

「おゝさと」第四十五号をお届け
します。ご執筆いただきました皆
様には心より御礼申し上げます。
また、同好会皆様のご協力で写真
の掲載もできました。

広報の発行は、今年で二十三年
目を迎えます。現在の発行状況を
基に推測すると、これまでにのべ
千名近い会員の声が広報を支えて
来たこととなります。皆様の多大
なるご尽力に改めて頭の下がる思
いです。今後も皆様の支えを切に
願っています。

よりよい広報の発行を目指して、
広報部員一同更なる努力を続けて
参ります。

平成30年度 広報部員

郎守 司昇 武治 誠久 康一
喜一 眞 文宏 和行 俊
本井 藤中 橋木 瀬場 村井
塚新 加田 根荒 強馬 松新

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第四十五号)

発行 平成三十年八月一日

発行者 支部長 若林 直樹

印刷所 光陽社印刷所

熊谷市本町一丁目一〇

(〇四八)五二一〇七五七